

くるとすっかり消えてしまった。そのかわり水流も消える。水源は湧水であったが、一部はぬるま湯のようなやや温度の高い湧水であった。

その後10分程水のカレた沢を登ってから、右手の尾根を越えて登山道に出る。

( )

[タイム] 中俣出合(12:00)→中俣終了(14:00)

## 大沢左俣 1992年9月23日

● 6時、遡行開始。出合から50分間はゴーロ歩きと砂防越えに終始する。砂防ダムは合計11個を数えた。11個目の砂防ダムを越えると、沢は樹林帯に入る。10分程で西沢出合。水量は西沢の方が多い。大沢は所々伏流になっている。

左岸から土砂をいっぱい押し出している支流が合流し、沢が左に曲がると滝が出てきた。まずは5m。左岸を直登する。ホールドが多く楽に登れた。この滝をかわきりに小滝やナメが連続するようになる。20mの滝は中央右より中段のテラスまで登って見たが、残置ハーケンのあるあたりが自信がなく、今日は単独行ということもあって播くことにする。いったん下って右岸を播くが、播き道は踏跡がかなりはっきりと付いていた。この沢は入山者が多いようだ。

20m滝の上は急なナメと滝の連続となった。5m2段滝を右岸から越えた後の7m滝。左岸を直登するが、最上部は頭上の灌木をつかみながらの短いが微妙なトラバースとなった。

● 8時、二俣。左俣はきれいなナメ滝となっているが、右俣は貧弱である。本流である左俣にルートをとる。最初の20mナメ滝は左側を登る。ホールドは多い。次の20m4段の滝が続く。1段目右岸を登り、左岸に渡って2段目に取り付く。2段目最上部は登りにくく、左岸のブッシュ帯に逃げ込んで越える。3段目、4段目は左岸を楽に直登する。

音をたてて流れていた水が急に少なくなってきた。40m滝にはチョロチョロとしか流れておらず、カレ滝に近い状態となっている。登れそうな感じもしたが、左手のルンゼにルートを求め、トラバース気味にヤブをこいで滝の上に出る。左俣の核心部はここまでで、ここからは沢の規模が一気に小さくなった。

沢の規模は小さくなったというものの、滝は次々に出てくる。しかし、これま

